

コーサラ国王ダシャラタの第一王子ラーマの物語は、古くから詠い語られてインド内外の多くのことばで親しまれている。

このラーマ物語はまた、「ラーマ生誕地」を含むとされるアヨーディヤーの回教徒礼拝堂が1992年にヒンドゥー至上主義者たちに破壊されたこととの関連でも考察するべきであろう。

坂田 貞二 E-mail: hindisakata@p1.s-cat.ne.jp 注 @p1.=@ p one dot 5/19の研究会では、主要文献・資料を持参して展示します。

ラーマは、コーサラ国の都アヨーディヤーでダシャラタ王の第一王子として生まれた。ラーマの物語は、インドで古くから詠い語られてきている。それはインドの諸言語で多数のヴァージョンを生みだす一方で、東南アジアの諸民族や日本でも受けいれられている。

ヒンディー語地帯でのラーマ物語は、16世紀にトゥルスィーダースが『ラーム・チャリト・マーナス（ラーマの行いの湖）』を民が語る言葉で書いたことにより、広く受けいれられるようになった。『ラーマの行いの湖』は、3世紀ころ現形になった古代インドの叙事詩『ラーマーヤナ』、15世紀から16世紀にヴェーダーンタ哲学の立場からサンスクリット語で編まれたラーマ物語『アディヤートマ・ラーマーヤナ』を参照して、トゥルスィーダースが当時の人々の願いを参酌して創ったものである。

その『ラーマの行いの湖』はのちに、野外劇ラーム・リーラーとして演じられるようになり今日にいたる。またインド国営TVドラマ『ラーマーヤナ』が、1987年1月から1988年7月までの日曜の朝に40分番組として78回にわたって放映された。このTVドラマと1992年のアヨーディヤー問題は、なにか関連しているのだろうか。これは文学と歴史の関係を考える機会になるかもしれない。

これら五つのラーマ物語が先行のものをどのように継承しながら、それぞれの時代の望みを採り入れたのか？ この問いに応えるべく、スイーター妃が拉致される場面、救出されたスイーター妃の貞節への疑問、物語の結末——これらの3点を以下に比較・対照する。

	古代インドの『ラーマーヤナ』	『アディヤートマ・ラーマーヤナ』	『ラーマの行いの湖』	『ラーム・リーラー』	TV版『ラーマーヤナ』
妃拉致の場面	妃の頭と髪を掴み車に乗せる	妃の足許の地面ごと手に乗せる	妃の幻影を妃と思い車に	妃の幻影を妃と思い車に	妃の幻影を脅し攫う*
貞節への疑問	火神アグニが潔白を証明	火神が潔白を証明し妃をラーマに	幻影が消えて妃が戻る	火神が妃は潔白だと証す	火神から妃が戻る
結 末	妃は地中に吞まれラーマは天界に	妃は森に去る、ラーマは天界に	妃はラーマに仕え子育て	妃は地中に、ラーマは天界に	ダシャラタ王健在、みな幸せに

\*妃の救出後に「幻影」と説明。

ヒンディー語による子ども向けラーマ物語のヴァージョンには、学校教科書<sup>(1)</sup>、副読本<sup>(2)</sup>、Amar Citra Kathaa 叢書のものがある。

(1) Vidyaalankaar, A et al (eds.), *Baal Bhartii* Vol. I (New Delhi: National Council for Educational Research and Training, 2002) pp.67-70.

「ダシャヘラーのお祭り」=二人の子どもが両親とダシャヘラーのお祭りに。子どもが玩具ほかを買ったあとで、ラーマが放った火の矢でラーヴァナが燃える。

(2) Berii, P. et al (eds.), *Baal Saahitya Bhaartii* Vol. I (Kalkatta: Hindii Pracaarak Sansthaan, 1981) pp.22-25.

「ラーマ神」=ラーマの生誕、結婚、林棲、スイーターのラーヴァナによる誘拐、ラーマのラーヴァナ退治、ラーマは帰国して王座にという梗概。

主要文献・資料 最近ではCDやDVDによる諸ラーマ物語が多数制作・販売されているが、それらは省く。編著者名、文献タイトルの転写が一貫していない、不悪。Beach, Milo Cleveland, *The Adventures of Rama*, Washington D.C.: Freer Gallery of Art, 1983.

16世紀のムガル写本の絵を多数収める。

Blackburn, Stuart, "Ramayan", M.A. Mills et al. (eds.), *South Asian Folklore, An Encyclopedia*, New York: Routledge, 2003 の pp.509-511.

Millsらによる事典はラーマ物語り関連で、Ram Lila, Ramayana, Ramayana TV Productionなどの項目を含む。

Bulcke, Camille, *Rāmkathā, Utpatti aur Vikās* (Hindi), Allahabad, 1950.

ラーマ物語の起源から今日の多数の言語版までを展望。

<sup>1</sup> Iyengar, Srinivasa K.R.(ed.), *Asian Variations in Ramayana*, New Delhi: Sahitya Akademi, 1983.

サンスクリット語・プラークリット語・アパブランジャ語の『ラーマーヤナ』、インドの民間文学における『ラーマーヤナ』。ジャイナ教徒が伝える『ラーマーヤナ』東南アジア、シナと日本の『ラーマーヤナ』など多岐にわたる。日本関連では、"Rama Stories in China and Japan :A Comparison" by Minoru HARA (pp.340-356) が収載されている。

金子量重、坂田貞二、鈴木正崇(編著)『ラーマヤナの宇宙—伝承と民族造形』春秋社、1998。

インドの諸言語による『ラーマヤナ』、東南アジアと日本の『ラーマヤナ』、『ラーマヤナ』の民族造形・身体伝承などに関する考察。

Raghavan, V.(ed.), *The Ramayana Tradition in Asia*, New Delhi: Sahitya Akademi, 1980.

サンスクリット語『ラーマヤナ』の概観とその諸写本、美術・演劇に見られる『ラーマヤナ』、近代インド諸語(カンナダ語、タミル語、ヒンディー語・ベンガル語、マニプリー語など)による『ラーマヤナ』、諸外国語(カンボジア語、タイ語、マレーシア語、フィリピン語、日本語など)による『ラーマヤナ』等多岐にわたる。日本については、”**Textual Theme of Ramayana in Japan**” by Minoru HARA(pp.334-347)が収載されている。

Richman, Paula (ed) , *Many Ramayanas: The Diversity of a Narrative Tradition*, Berkeley: University of California Press, 1991.

A.K.Ramanujan”Three hundred Ramayana”を収める。はシャークタ派の思想を体して

Stasik, Danuta, *The Infinite Story: The Past and Present of The Rāmāyāna in Hindi*, Delhi: Mnohar, 2009.

ヒンディー語による『ラーマヤナ』を、トゥルスィー前、16世紀のトゥルスィーによる『ラーマの行いの湖』、そのあとを今日まで通観。

ヴァールミーキ作とされる *Adbhuta Rāmāyaṇa* はシャークタ派の思想を体し、ラーヴァナを倒したのはシャクティ女神たるスィーターだとする (pp.18,19)。

Tevārī, Devīprasād (ed.), *Śrī Tulsīdās jī kṛt Rāmāyaṇa*, Kāśī, 1872.

石版刷りの『ラーマの行いの湖』。重要な場面の挿し絵を含む。全470頁ほど。主要場面の絵は、金子・坂田ら(編著)の『ラーマヤナの宇宙』に所収。

ヴァールミーキ(岩本 裕 訳)『ラーマヤナ1, 2』平凡社(東洋文庫 376,441)1980,1985.

第二編までの邦訳。解題が詳しく、『ラーマヤナ』の性格と意義、伝本・刊本・訳本・研究書、インド古典・仏教徒やジャイナ教徒の「ラーマ物語」・インド近代諸語による「ラーマ物語」、インドの外における「ラーマ物語」の展開をサ展望している。インド近代諸語による「ラーマ物語」については **Bulcke** を参照した。

問い：

① あなたが親しんでいる言語・地域では、いつ、だれのために編まれたラーマ物語(CDやDVDを含む)がありますか？

縦(通時的)と横(言語横断的)で物語の同じ場面(例:結末)がどう語られているかを比較対照すると、<インド文学史>の研究が豊かになりましょう。

サンスクリット語・プラークリット語などによる古典インドのラーマ物語は、ヴァールミーキによるとされる『ラーマヤナ』、『ブシュンディー・ラーマヤナ』、『アディヤートマ・ラーマヤナ』、バヴァブーティの戯曲『ウッタララーマチャリタム』はじめ多種多様です。近代諸語ではさらに多種多様です。

② 地域・言語によってラーマやスィーターなど主要人物の姿や行動が違っているようです。

(例) トゥルスィーダースの『ラーマの行いの湖』では、ラーマは正義と友愛を重んずる雄者、スィーターは控え目で貞節な女性、ラーヴァナは極悪非道の羅刹。タミル語でプラヴァルが1946年に著した『イラーヴァナン・カーヴィヤム』では、ラーマは言い寄った女性に拒まれてその女性を殺させ、スィーターはラーマに口答えして身だしなみばかり気にする女、ラーヴァナは苦行に励み、情け深いとされている(高橋 孝信「ラーマヤナと南インド」金子量重ほか(編著)『ラーマヤナの宇宙』pp.57-77)。

③ 1992年のアヨーディヤー暴動事件は、あなたに関心をお持ちに地域で当時どう受けとめられたでしょう？ 今日では？ 新聞・雑誌の報道、政党の動き、文学作品などで。

呼びかけ・お願い：まずは基本情報をメモかメールで下さい。それを集積して研究会を開きましょう。坂田貞二 E-mail: hindisakata@p1.s-cat.ne.jp

- ① ラーマ物語が ・どの言語で ・いつごろ成立し、 ・どのような媒体(歌・語り・舞踊・劇、文献・小冊子、絵画、CDやDVD)で、だれに親しまれているか。
- ② そこでラーマやスィーターなどの主要人物の像は、どのように描かれているか。
- ③ 1992年のアヨーディヤー暴動事件は、あなたの関心地域でどのように伝えられ、受けとめられているか。

2(付記) 坂田は2012年の夏に Shimla で開かれる国際バクティ文学研究大会に参加するさい、自分の問いへの答えを探り、CDやDVDを含む関連資料を追加収集します。